

昭和37年の種付成績について

畜産課生産係

1. 黒毛和種

(1) 種付頭数

種付頭数は第1表に示すとおり、成雌牛の約64.5%であるが、岡山、和気、倉敷、笠岡農林の各管内はいずれも50%以下で農家の和牛の繁殖にはそれほど魅力を感じていないことを示しており、勝山、新見農林管内はその比率が高く、関心が極めて高いことをものがたっている。換言すれば山間農家にとっては和牛生産も重要な収入源であることを指唆している。

(2) 前年度種付頭数との比較

第2表 最近3ヶ年間の子牛市況

年次	種別	昭和35年	昭和36年	昭和37年
メ	ス	41,700円	53,100円	40,400円
オ	ス	35,400	34,900	25,600
ヌ	キ	36,600	39,200	33,000
計		38,700	44,200	33,800

一般に商品の生産数量はその市況の影響を受けるのが通例であるので、この点からその頭数の増減についてみると、前年の子牛の市況は第2表に示すごとく36年に比較すると約11,000円から安かったのであるが、前年に比較して種付頭数の増加がみられるのは新見、勝山、美作の各管内で、いずれも県下の主要生産地帯である。又津山は98.9%と若干の減少が見られるが、これは特に久米郡南部の影響のためと考えられる。

一方県南部一帯の地域はいずれも相当の減少が見られ、従来にもまして生産地の集約化傾向が見られる。

(3) 人工授精の普及率

人工授精の普及率は県下全体でみ

第1表 黒毛和種の種付成績

農林別	区分	成雌牛飼養頭数(37.2.1)	昭和37年				昭和36年種付頭数	昭和37年生産頭数	
			種付頭数	成雌牛に対する%	前年度種付頭数に対する%	うち人工授精によるもの			種付頭数に対する%
岡山	山	2,842	920	32.4	74.9	800	87.0	1,228	1,080
和気		2,227	740	33.2	77.0	749	100.0	961	716
倉敷		3,032	399	13.2	62.3	399	100.0	640	474
笠岡		5,499	2,743	49.9	90.4	2,450	89.3	3,034	2,546
高梁		6,024	5,081	84.3	87.0	5,081	100.0	5,842	5,496
新見		7,318	6,411	87.6	109.0	5,060	78.9	5,879	5,619
勝山		6,755	6,199	91.7	103.7	5,158	83.2	5,979	5,242
津山		14,876	9,074	61.0	98.9	6,705	73.9	9,177	8,397
美作		7,962	4,903	61.5%	116.2	3,071	62.6	4,218	3,692
計		56,535	36,479	64.5	98.7	29,473	80.8	36,958	33,262

ると80%である。このことは特に和牛は交通不便な山間へき地にも相当飼養されている関係で、100%の普及をのぞむことは無理であるが、特に美作の62.6%津山の73.9%はいずれも過当に低い数字であり、優良な種雄牛を有効的に利用することが必要であると考えられる。

2. 乳用牛

乳用牛のうちホルスタインの種付頭数は16,902頭で、前年の15,123頭に比較して約29%の伸びを示しており、ジャージーについても8%の伸びがみられ、確実な増加が認められる。

第3表 乳用牛の種成績

品種	区分	成雌牛飼養頭数(37.10.1)	昭和37年				昭和36年種付頭数	昭和37年生産頭数	
			種付頭数	成雌牛に対する%	前年度種付頭数に対する%	うち人工授精によるもの			種付頭数に対する%
ホルスタイン		19,096	16,902	88.5	128.9	16,902	100	13,116	11,577
ジャージー		2,650	2,171	81.9	108.2	2,171	100	2,007	1,864
計		21,746	19,073	87.7	126.1	19,073	100	15,123	13,441

(注) ホルスタインの成雌牛飼養頭数は総飼養頭数の80%として計算した。